

さがみはら

発行 相模原市総務課市史編さん室

市史編さんだより 第12号

2003.5.1

相模工業のこと

相模工業(株)は、旧相模陸軍造兵廠(現、在日米陸軍相模総合補給廠)内に創設された(株)小松製作所相模作業所(1949(昭和24)年7月創設)を前身として、1951(昭和26)年1月に発足しました。同社は米陸軍が太平洋戦争で使用したブルドーザー、トラック、戦車、スクレーパー、パワーショベル等の工兵機器の修理を業務としていました。

発足当初、従業員はおよそ千名でしたが、1950(昭和25)年6月に始まった朝鮮戦争の影響により事業の規模が拡大し、それとともに従業員も大幅に増え、最盛期には1万人を超える人が働いていたということです。

朝鮮戦争の際、日本は米軍を主体とする国連軍の後方基地としての役割を果たしましたが、相模原で修理された多くの工兵機器も、戦場へと送られていきました。

しかし、1953(昭和28)年朝鮮戦争の休戦以後は、順次民需産業への転換を図り、1960(昭和35)年2月には民需産業に専念するために補給廠から撤退しました。

昨年、元従業員の井上正美氏から、『今はない相模工業の貴重な記録を後世に残したい』、『元社員や関係者からの資料提供の呼び水になれば』という思いから、多くの写真が市史編さん室に提供されました。それらの中には相模工業の各工場の作業風景や事務所内の様子、あるいは補給廠内を写したものがああり、相模原の現代史を知る貴重な資料ともなるものです。

なお、井上氏は現在、元従業員の親睦を目的とした「相和会」の会長として、活動をされており、今後会員の皆さんに対して相模原市史統編編さん事業への協力を呼びかけてくださるということです。

(主査 小原 隆)

トラクタの解体作業(1957年頃)
横浜線を通して運び込まれた機器は、洗浄、解体、組立て等の工程で修理が進められました。使用できない部品があると、新たに設計し、製作したということです。(井上正美氏提供)



「考古編」の調査がいよいよ本格化

「考古編」編さんに関わる調査研究は、今年度からいよいよ具体的な資料調査が始まります。昨年度は市内各地の遺跡から出土した出土品（土器や石器など）の現状把握が主な調査内容でした。市内では現在 238 箇所にも及ぶ遺跡の範囲が周知されており、こうした遺跡からの出土品は膨大な数になります。土器や石器のかけらを一点ずつ数えれば、おそらく、数万～十数万点になると思われます。

これらの出土品のほとんどは、各種の土木工事に起因する緊急発掘で出土したものです。この緊急発掘は過去約 30 年の間だけでも市内で 300 件前後行われています。膨大な出土品を発掘調査ごとに把握した上で、整理することは容易ではありません。また、緊急発掘という性格上、これらの出土品の中には、学術的な検討が不十分なまま収蔵庫に眠っているものもあります。このような出土品を調査し、多くの人々にとって学術的な資料として扱うことができるようにすることも、市史編さんの目的の一つです。

ただし、出土品といってもさまざまな種類があり、その種類に応じて調査を進めていくことは大変な作業です。考古学で扱う時代はとても幅広い上に、研究の対象とするものは過去の人々が残した痕跡や“もの”です。過去の人々によって残された“もの”の代表として捨てられたゴミがありますが、現代人が残すゴミを想像すれば、いかにそれが雑多なものであるかが想像できると思います。

このように多種多様な出土品のうち、今年度は後期旧石器時代（約 3 万年～約 1.2 万年前）に属する石器を中心に調査に着手することになりました。現在、市内の上溝や下九沢から出土した石器を中心に調査を進めています。



市内から出土した石器

調査では石器一点ずつの出土位置、種類、材質などを記録し、実測図を作成する作業が中心になります。また、石器の細部や質感を客観的に示すため写真撮影も行います。小さな石器を相手にした地道な作業ですが、収蔵庫に眠った出土品を学術的な資料に変えるには避けて通ることのできない基礎的な作業といえます。

（主事・学芸員 河本 雅人）

市史編さん室の新しいスタッフです。

○副主幹 山田 不二郎（やまだ・ふじお）

戸籍住民課から異動してきました。続編といっても、既刊の市史より内容多岐にわたり、ボリュームもある計画です。長い道のりになるでしょうが、より良い内容となりますよう努力したいと思います。

○非常勤特別職・市史編さん調査員 小山 優美（こやま・ゆみ）

昨年度はアルバイトとして資料整理のお手伝いをしていましたが、4月から調査員として働かせていただくことになりました。新たな気持ちで市史編さんに取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

○整理補助員 鈴木 尚史（すずき・なおふみ）

4月から市史編さん室で働くことになりました。私の主な仕事は考古資料の再整理ですが、相模原市の貴重な文化遺産の保存に少しでも貢献できるよう、がんばりたいと思います。よろしくお願いします。

前市史編集室の

写真から 10

今回は昭和 38 年 12 月に撮影された磯部地区の様子です。写真右奥の森が磯部八幡です。当時は、かやぶき屋根の家が点在し、周囲には水田が広がっていました。

下の写真は平成 14 年 8 月に撮影したのですが、左側の水田は駐車場に、右側は子どもの広場が変わっていました。また、水路もコンクリートの護岸になり蓋に覆われてしまいましたが、二方向から合流しているのと、わずかにカーブする道路の形は昔のままです。

（主任 方波見 淳）





編さん室の動き (3月～4月)

月	日	内 容
3	3	事務室移転作業
	4	国立公文書館へ写真資料収集
	5	神奈川考古学財団御堂島氏と旧石器時代資料整理関係の打合せ
	6	神史協研修会へ参加(県立公文書館)
	7	事務室開所式
	11	現代図録編執筆者と第2回市内視察(相模大野等南部方面)
	13	市内景観調査・写真撮影(18・19日にも実施)
	14	平成14年度第4回現代図録編執筆者打合せ会議開催
	15	第2回市史講演会「軍都からベッドタウンへ」開催 (講師 浜田弘明氏／参加者 110人)
	18	神史協講演会へ参加(県立公文書館)
	20	平成14年度第3回市史編集委員会開催
	22	平成14年度第3回市史編さん審議会開催
	25	横浜開港資料館へ資料調査
	26	本庁・総務課書庫へ廃棄公文書の確認
	27	たましん歴史資料室へ資料調査
28	沼津工業高等専門学校望月氏と黒曜石の産地同定関係の打合せ	
4	1	辞令交付式 本庁・総務課書庫へ廃棄公文書の確認
	2	埋蔵文化財整理室へ資料調査
	4	今井家資料を博物館収蔵庫から市史編さん室資料保管庫へ移転
	8	平成15年度第1回現代図録編執筆者打合せ会議開催
	9	現代図録編執筆者清水氏と打合せ 津久井町企画政策室職員来室
	10	栗田編集委員と資料収集・調査について打合せ
	17	遺跡踏査(磯部、下溝、田名、矢部)
	19	個人保管考古資料借用(24日にも実施)

「さがみはら市史編さんだより」第12号

発 行 平成15年5月1日

編 集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19

T E L 042(750)8025 / F A X 042(750)8039